

- 12) *Isoetes lamprospilus* C. & R. FELDER (ホソバセリ)
 13) *Polytremis pellucida* MURRAY (オオチャバネセリ)
 14) *Pelopidas jansonis* BUTLER (ミヤマチャバネセリ)
 15) *Pelopidas mathias* EVANS (チャバネセリ)
 16) *Parnaguttata* BREMER & GREY (イチモンジセリ)

Papilionidae	11
Pieridae	8
Nymphalidae	25
Lycaenidae	34
Satyridae	14
Curatidae	1
Danaidae	1
Libytheidae	1
Hesperiidae	16
Total	111

9科111種の蝶が採集されている、県下に産する蝶116種(迷蝶は除く)の内揖保川流域に産しない種(他の河川流域には産する)は3種である。

Luedorfia japonica LEECH ギフチョウ

Narathura bazalus HEWITSON ムラサキツバメ

Lethe marginalis MOTSCHULSKY クロヒカゲモドキ

上記3種は採集報告はあるが発生期にその採集地を調査しても幼虫の食樹(食草)すら発見出来ないので揖保川流域の蝶としては除いておく。

だが近隣の河川流域に発生地があるので揖保川流域内で新産地が見付かる可能性はある。

ギフチョウは低山地帯よりもむしろ山地性のギフチョウの発生地を捜した方が良いと思われる。なぜならば黒原川の上流部は笠杉山の東方の部落朝来郡朝来町奥田路、神子畑(丸山川流域)で採集されている。倉床川の北方では養父郡大屋町明延で採集されているムラサキツバメとクロヒカゲモドキは相生市三濃山に発生地があるので竜野市西方新宮町南部を調査すれば見付かる可能性はある。

イシガキチョウは毎年目撃や採集記録が発表されているが土着種としては認めがたい、近県からの飛来蝶であろう。

ベニモンカラスジミ、カラスジミの採集報告も聞いているが確実性に乏しい(採集地で再発見されない)ので省いておく。

Isamu Ozaki 〒763 明石市

兵庫県の蝶雑記 (1)

広畑政己

1. 蝶数種の食草について

国内に生息するチョウの食草はほぼ全種に亘って明らかにされているが、地域によって、獲得している食草も様々で、一概に全国画一とはいかない。たとえばスギタニルリシジミのように、トチノキを食している地域もあれば、キハダ、ミズキのところもあるといった状態である。また、多化性の種においては、季節によっても食草が変化するものもあるが、はっきり解っていない種も多い。そのような訳で、県下においてもたぶんそんなものを食草にしているだろうということではなく、確認し、記録しておく必要があると思うので、数種の食草について次に報告をしておきたい。

(1) ホシミスジ

1983年5月1日に赤穂市春日にて山裾に生えているイブキシモツケで3頭の幼虫を確認した。県下では川西市等でユキヤナギ、コデマリの記録がある。

(2) ウラギンシジミ

1982年5月9日に姫路市広峰山にてフジの新芽より5卵を得ている。フジの花芽、花穂も探したが、卵は見つからなかった。夏から秋にかけてはクズの花で幼虫が見つかるが、フジの花はクズのように花の期間が長くないので新芽に産卵するのではないと思われる。

(3) サカハチチョウ

本種の食草はコアカソ、ヤブマオなどイラクサ科からの記録があるが、筆者は1981年8月23日に夢前町佐中にて同科のカラムシ属のクサマオに産卵中の本種を観察している。成虫は、クサマオの葉柄に2卵を積み重ねて産卵し飛び去った。クサマオの記録はないようなので報告する。

2. ジャノメチョウ科2種の幼虫の色斑について

ジャノメチョウ科のなかには、同じ種でありながら幼虫の色彩が違うものが数種ある。その中でクロヒカゲ、ヒカゲチョウでそれぞれ2型を観察しているので報告しておきたい。クロヒカゲは、相生市三濃山で同株のケネザサより緑色型、褐色有紋型をそれぞれ1頭得ている。赤西溪谷や加美町でも5頭の幼虫を採集したが、すべて褐色有紋型であった。もう1種のヒカゲチョウは、福崎町神谷で、第3～第5腹節に黄色紋がある幼虫を1頭得ている。また、夢前町菅生閭産の成虫から採卵して得た20数頭の幼虫は、すべて無紋の褐色の幼虫であった。

Masami Hirohuta 〒671-22 姫路市